

DXの取り組みについて

株式会社サーラビジネスソリューションズ
2025年7月2日



// DX推進に向けてのメッセージ

サーラグループは、エネルギー、建設、住宅、自動車、不動産、動物医薬品など、多岐に渡る事業を通じて、地域の皆様の暮らしを支えています。

当社は、サーラグループのIT基盤を支える会社として2003年に設立されて以来、現在に至るまで、グループ各社の情報システムとネットワークの構築・運用・保守サービスを担当し、グループの安定的な業務運営に貢献してまいりました。これもひとえに、皆様のご支援の賜物と心より感謝申し上げます。

近年、VUCA（Volatility、Uncertainty、Complexity、Ambiguity）、DX（デジタルトランスフォーメーション）といった言葉に象徴されるように、ICT技術は目覚ましい進化を遂げています。

このような時代において、私たちはグループビジョン2030のスローガンである「私のまちにSALA、暮らしとともにSALA」を実現するために、グループ各社のみならず各社をご利用いただいている地元の企業や自治体の皆さま、個人のお客様に対して、直面している課題を解決できるICTソリューションを提供することを通じて、豊かな社会の実現に貢献してまいります。

これまで培ってきた安定かつ安全なITインフラの提供に加え、AI、生成AI、IoT、クラウド、各種データ分析による業務の高度化といった先端技術を活用した「新たな価値創造」にも挑戦してまいります。

今後とも皆様のご愛顧、お引き立てを賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長 浅野 卓

// 当社を取り巻く環境とDX推進の3つの領域

当社を取り巻く外部環境

当社は、エネルギーをはじめ暮らしとビジネスを支える様々な事業を地域に密着して展開するサーラグループにおいて、グループ内のDX推進及びITインフラ・システム開発・運用を通じて、サーラグループ内企業の事業活動をIT面から支えています。

社会全体のデジタル化の加速に伴い、データとデジタル技術の活用が不可欠となり、あらゆる産業でデジタルトランスフォーメーションが求められています。また、少子高齢化の進行、女性や高齢者の労働参加の促進、脱炭素への取り組み、ESG投資の加速などが企業活動の変革を強く促しており、社会構造も変化しつつあります。

IT業界特有の課題としても地方都市におけるIT人材の獲得競争激化による技術者の確保が年を追うごとに困難になっております。また、ネットワーク社会の拡大に伴うサイバーセキュリティリスクの増大も喫緊に対処すべき課題となっています。

このような外部環境下において、持続的成長を続けていくためには当社自身のDX（デジタルトランスフォーメーション）を進めることが不可欠です。特に、デジタル技術を活用した生産性向上及び高度化、クラウド移行による社員の働き方の多様化を実現する柔軟性、安定稼働による可用性の確保及び高度なサイバーセキュリティ対策については、自社のみならず、グループ全体の持続的成長にも寄与するものと考えています。また今後、DXの取組を通じて、地域企業へのサービス提供等、新たな挑戦にも繋げていきたいと考えています。

DX推進の3つの領域

DXは多岐に渡る取り組みを包含するため、その推進にあたっては、3つの主要な構成要素に分解し、取り組む領域を明確化しています。

DX-1	DX-2	DX-3
業務の生産性向上	データ活用ビジネスへの投資	新しいビジネス創造
・自身の仕事の生産性向上・デジタル化 ・生成AI等新しい技術の導入・業務適用	・データ活用ビジネスへの注力 ・既存サービス内容のグループ各社への拡大	・新しいビジネス・事業の立ち上げ

// 経営ビジョン

経営ビジョン

サーラグループ

2030年
ビジョン

私のまちにSALA、暮らしとともにSALA

デジタルを活用した顧客体験「サーラのDX」の実現

DX-1

社員の仕事のデジタル化

DX-2

顧客サービスのデジタル化

DX-3

新規事業創造

サーラビジネスソリューションズ

サーラグループのIT機能子会社

DX-1

深化

既存業務の見直し
デジタル化による生産性向上

DX-2

進化

データ活用ビジネスへの注力
共創による新たな顧客価値創造

DX-3

真価

新しい事業領域への挑戦
地域企業へのサービス提供

サーラビジネス
ソリューションズの
目指す姿

「お客さま視点の業務プロセス改革」「デジタル技術を活用した顧客体験の創造」を実現するため、
今まで培ったデジタル技術を昇華させ、サーラグループと地域社会の未来をリードする

// 当社のDX戦略の展開の方向性

当社はサーラグループの「サーラのDX」を踏まえ、「DX-1」「DX-2」「DX-3」の領域を軸に戦略の方向性の設定しています。
「DX-1」で、デジタル技術を活用して自社の業務の生産性を向上させ、「DX-2」では、データ活用分野への投資を行います。具体的には、BIツール等を活用して、自社のデータ活用の開智を広げながら、顧客（サーラグループ内企業）の価値最大化も図る両輪での取組みを推進します。
その後、「DX-1」「DX-2」で培ったノウハウ・知見を活かして2030年を目途に「DX-3」として、地域企業への業務の提供を目指していきます。



当社の事業領域

サーラグループ デジタル戦略／戦術立案

自社業務デジタル化（kintone等）

データ活用ビジネス・ソリューション
（自社含む顧客の経営情報の可視化・高度化）

デジタルクリエイティブ
（サイトデザイン、EC、スマホアプリ）

システム開発
運用・保守

ITシステムの環境整備

通信・インフラ・セキュリティ構築・運用

クラウド環境移行／SaaS利用

デジタルデバイス等の集中購買

地域企業へのクラウド環境や
コミュニケーションツール提供

人材育成 ITパスポート／基本情報技術者／AmazonWebService認定資格の取得、IPA_DX推進スキル標準に即したスキルの高度化

// 当社のDX戦略

「経営ビジョン」及び「DX戦略の展開の方向性」を実現するため、自社の業務を深化する「DX-1」の業務の生産性向上及び投資・注力領域の「DX-2」のデータ活用ビジネスについて、以下のDX戦略を設定して、デジタル技術を効率的に活用することでデータドリブンな経営を実現します。

1

業務プロセスの 効率化

クラウドサービス等の積極利用、オフィス以外の場所での業務遂行をトリガーに業務プロセスを見直し、より効率的なプロセスや処理への改善

取り組み例

ワークフロー業務のデジタル化

管理部門の「稟議書」や事業部門の「見積書」や「請求書発行／支払」のデジタルワークフロー化を進めています。同時にペーパーレス及びどこでも業務遂行ができる「働き方改革」への寄与を拡大させていきます。

2

データ活用 ビジネスへの投資

社員の業務活動や経営情報の可視化によるデータドリブンな意思決定を促進

取り組み例

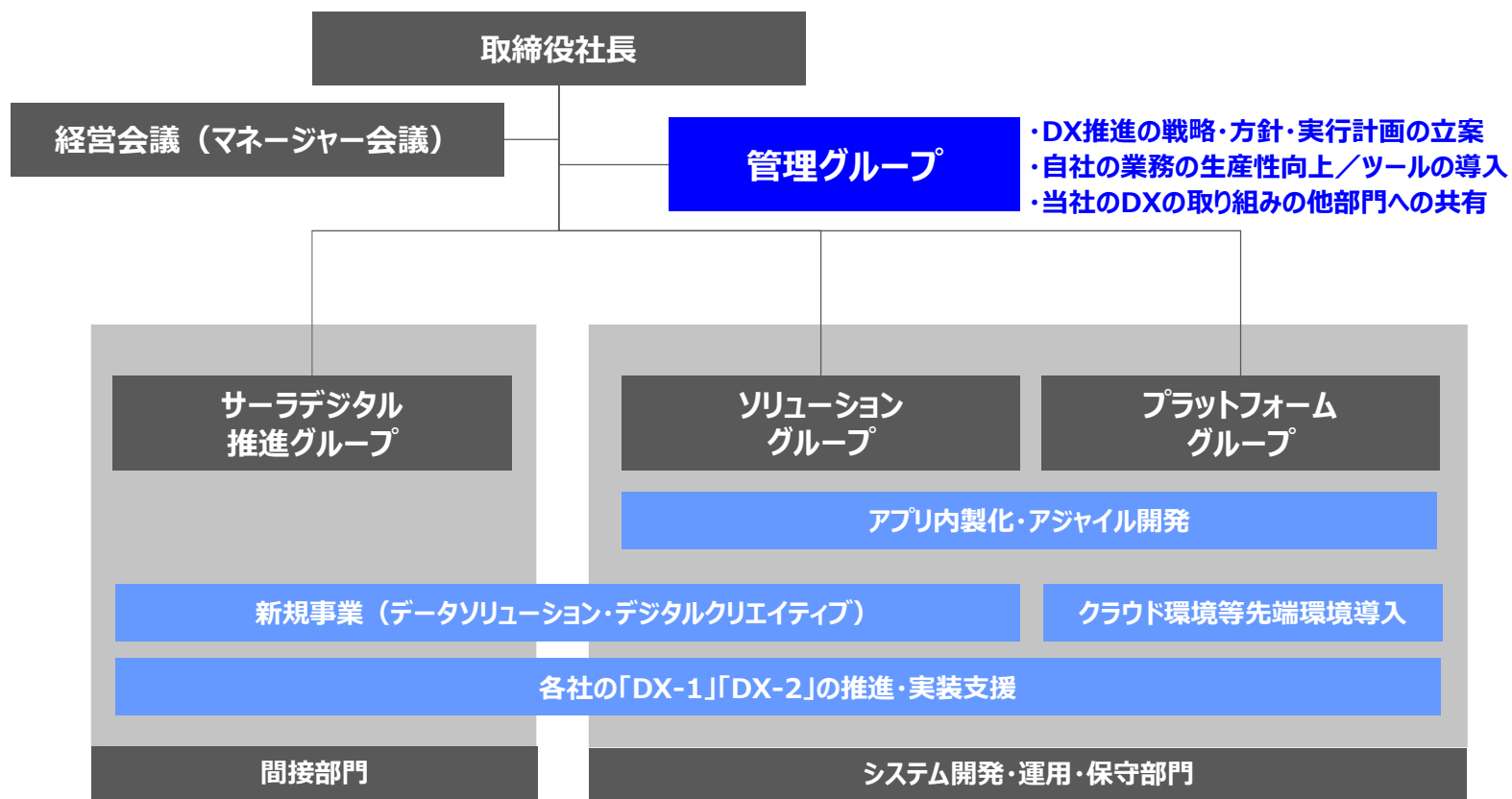
生産性や業務プロセスの効率化、リードタイム短縮への寄与

社員の生産性を向上させる、お客さまへのサービス提供のリードタイムの「可視化」を行い、分析することで業務の効率化・高度化させる施策検討に役立てます。

- i) 業務プロセスの細分化とプロセス毎の活動データの取得と分析
- ii) 業務分析データを元にした適正な人員配置等の検討材料化
- iii) 当社の業務プロセスの「可視化」「データ活用による効率化」の成果を題材に、AIやデータ加工・連携を組み合わせたサービス開発

// 当社のDX推進体制

当社のDX推進は、経営企画・人事・総務・経理部門を統括する「管理グループ」が企画・推進・実施の役割を担っています。管理グループによる実行計画は経営会議（マネージャー会議）を通し、システム開発・運用・保守部門である「ソリューショングループ」「プラットフォームグループ」と、グループ各社の案件の企画・相談窓口である「サーラデジタル推進グループ」に推進を振り分け、横断的にDXに係る取り組みを進めています。



// DX人材の育成・確保

IT技術・スキルを磨きつつ、事業や業務を理解し事業成長に寄与できる人材が次々と生まれてくる「育成の仕掛け」をつくることで、DX人材の育成・確保を行います。

【育成・確保のテーマ】 業務に精通したDX人材育成・確保

DX関連資格取得の 推奨／成熟度向上	・現在積極的に資格取得を進めている「ITパスポート」「基本情報処理技術者」「AWS認定」の他、IPA「DX推進スキル標準」の人材類型のスキルの高度化やプロジェクトマネジメントに係る資格取得を推し進める
	強化想定 ・「DX推進スキル標準」における「ビジネスアーキテクト」「データサイエンティスト」「サイバーセキュリティ」人材の注力育成 ・新規事業開発領域に適用できるプロジェクトマネジメントプロフェッショナルの資格取得 ・プロフェッショナルを交えた勉強会や「グロービス学び放題」等オンライン学習サービス利用による継続的な学習機会の設定
グループ内外の 人材交流	・グループ各社の事業・業務とそのプロセスを理解するため、グループ各社との人事交流を実施 ・公募制によるグループ外企業や大学機関への長期研修、デジタルクリエイティブ領域における副業人材の受入
	展開想定 ・グループ各社の間接部門（人事・総務・経理・経営企画・監査）との人事交流 ・データサイエンスや新しいデジタルとビジネス領域の学習・経験の獲得につながる他企業や大学機関へ研修（出向含む） ・Webサイトデザインやイラストレーションに係るデジタルクリエイティブ領域の副業人材の積極的な受入
アプリ開発内製化 の徹底	・ソリューションとしての「アプリ」提供における内製化／アジャイル開発の推進 ・アプリ内製化案件の経験を通じた業務理解促進や新しい技術の導入やスキル向上機会の獲得
	想定 ・「IT・デジタル技術を有する」ことが当社の価値であり、それを磨くために可能な限り内製化を徹底 ・汎用的な商流理解や各社の事業や業務に即した理解をするための内製化の徹底 ・内製化やそれに伴う新技術の試行を通じた若手中堅社員の「探究」「挑戦」を後押しできる風土づくり

// DX推進のための環境整備

社員自身が働きやすいと感じる環境整備として、在宅勤務や出張先からのテレワークが可能な業務遂行環境を整備することで、副業人材の受入だけでなく、当社社員の副業の容認など「多様な働き方」の実現を目指します。
また、企業文化の改革として、当社導入済のQuickSight（BIサービス）の積極利用によるデータ活用機運の向上等のコミュニケーションツールを活用したコミュニティを開設することで、気軽に発言ができ、ポジティブな意見交換ができる雰囲気づくりを行います。

【環境整備のテーマ】 クラウド等先進技術の積極導入

AmazonWeb Serviceの積極利用	・当社業務システムのAmazonWebService上での稼働 ・当社提供サービスとして、グループ各社の基幹システム・業務システムのAmazonWebService環境への移行とその支援 ・AmazonWebServiceと並行導入しているQuickSight（BIサービス）による社内業務活動の可視化
	実施内容 ・kintoneやローカル環境で動く仕組みもAmazonWebService上での稼働にシフト ・グループ内企業の基幹システムリプレイスにおいてはAmazonWebService環境での稼働を前提とした提案の実施 ・副業者や事業やサービスを共に創るパートナーもアクセスおよび業務がしやすい環境構築
セキュリティ対策の拡充	・リスクマネジメント視点で持株会社のサーラコーポレーションと共同・協働体制で「SALA-CSIRT」を設置 ・グループ各社の通信監視と合わせて端末監視やセキュリティ対策を実施
	実施内容 ・コンピュータセキュリティインシデント対応チーム「SALA-CSIRT」設置とインシデント発生時の対応 ・通信監視：各種セキュリティ製品・サービスを利用した監視、日々のメールや外部アクセスの監視 ・訓練の企画・実施：標的型攻撃メール訓練等の実施
ゼロトラストネットワーク ローカルブレイクアウト への完全シフト	・当社社員のリモートワーク対応及びグループ各社の業務遂行環境の整備 ・グループ各社の業務環境整備と併せてゼロトラストネットワーク／ローカルブレイクアウト構成にシフト
シフト中	実施内容 ・セキュリティ向上：侵入リスク低減、多要素・多段階認証の導入、マイクロセグメンテーションの実装 ・コスト削減：拠点間ネットワークコストの削減、物理的な機器設置や保守が不要になることによる運用管理コストの削減 ・利便性の向上：クラウド環境活用＋場所を選ばないアクセスによる当社及びグループ各社の「多様な働き方」の実現

// 更なるDX推進に向けて

当社のDX推進の取り組み状況について、定量的・定性的に評価をして管理するとともに、成果については当社のホームページにて適宜公表を行います。

■ DX戦略に紐づく指標

業務プロセスの 効率化	業務とプロセスの デジタル化に 係る指標	・kintoneによる業務アプリ開発件数 ・アナログ業務数（残数）
データ活用ビジネス への投資	データ活用に 係る指標	・データに基づいた意思決定の割合 ・レポート・ダッシュボードの利用回数／データ参照回数 ・グループ企業へのデータ活用支援件数

■ DX人材の育成・確保／DX推進のための環境整備に紐づく指標

DX人材の 育成・確保	実践とスキル獲得を 継続的に確認する指標	・開発案件のアプリ内製化率 ・基本情報処理技術者資格者数／AWS認定資格保有者数 ・IPA「DX推進スキル標準」のスキル標準診断テスト（DX検定）実施率
DX推進のための 環境整備	クラウド環境シフト に係る指標	・AWS稼働サービス／システム数 ・オンプレミスサーバー数